令和５年度

坂井市小中学校

福祉共育活動報告書

～子どもも大人も、

地域で共に育む

“福祉共育”～

社会福祉法人　坂井市社会福祉協議会

令和５年度　坂井市小中学校　福祉共育活動報告書目次

三国町----------

三国南小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P1
三国北小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P2
雄島小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P3
加戸小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P4
三国西小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P5
三国中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P6

丸岡町----------

平章小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P7～8
長畝小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P9
高椋小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P10～11
鳴鹿小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P12
磯部小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P13～14
明章小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P15～16
丸岡中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P17
丸岡南中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P18

春江町----------

春江小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P19
春江西小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P20
大石小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P21
春江東小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P22
春江中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P23

坂井町----------

東十郷小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P24
大関小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P25
兵庫小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P26～27
木部小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P28
坂井中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P29

三国南小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

「人との関わり合いを通して，思いやりやボランティアの心を」

１・２年生・・・南っ子まつり（子ども園　幼保園５才児との交流）
１年生・・・新１年生へのプレゼント作り
４年生・・・盲導犬に関するお話を聞く
　　アイマスク体験
　　点字体験
　　障害者スポーツ体験（卓球バレー・ボッチャ）
生活委員会・６年生・・・ユニセフと赤い羽根の募金活動
　　インクカートリッジの回収

令和5年度の取り組み

アイマスク体験について

社会福祉協議会の方に協力していただき、アイマスク体験を行いました。２人１組となり、体育館内をアイマスクをつけて歩く、階段の上り下りや靴を下足箱に入れる、水道で手を洗うなど日常生活で欠かせない動作を行いました。支援される側と支援する側両方の立場を経験することによって、どのような場面で困ることがあるのかや、どのように声かけをしたり、手を引いたりすると良いかなどを実感することができました。具体的な支援方法がわかったことで、今後の行動に生かしていきたいと考えていました。

障がい者スポーツ体験（卓球バレー、ボッチャ）

卓球バレー協会やCom-Support Projectの方々に協力していただき、卓球バレーとボッチャを体験しました。卓球バレーでは、三国町内のお年寄りの方々にも参加いただきました。また、ボッチャ体験では車いすの操作の仕方や介助の仕方を教えてもらいました。子供たちは、障がい者スポーツをただ楽しむだけでなく、年齢や障がいの有無に関わらず楽しめるものがあるということに気付くことができました。またそれは、ルールを変えることでいろいろな人が楽しめるようになるということにも気付くことができました。そして、これからもいろいろな人と関わっていきたいと考えるようになりました。

三国北小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】　４年生

例年行っている施設見学に加えて、児童が障害がある方々の思いや気持ちを想像できるような体験活動を重視して取り組みました。１学期は三国町内の施設見学を通して、障害のある方の施設や設備が身近にあることを知りました。２、３学期はアイマスク体験や点訳体験、ボッチャやゴールボールなどのパラスポーツに挑戦し、多くの経験を積みました。年間を通して充実した福祉活動ができたのではないかと考えています。

令和５年度の取組み

アイマスク体験・点訳体験

アイマスク体験では、アイマスクをつけて教室館を移動してみました。児童達は周りが見えない状況に戸惑っていたようです。しかし、ペアの児童が「右に曲がるよ」「階段があるから気をつけて」など優しく案内してくれたことで、なんとか歩くことができました。

点訳体験では、本物の点訳機を使用させていただきました。点字の絵本があることや、点字を打つときは右から打つことなどを学びました。

２つの体験を通して、児童は目が見えない人たちの大変さを知り、自分たちができることについて考える機会となりました。

三国町内の施設見学

「三国町の優しいところ」というテーマで、三国コミュニティセンター、三国図書館、三国駅を訪問しました。いずれの施設も、子どもたちにとって普段からなじみのある施設ではありますが、よーく目をこらして調査してみると、今まで気付かなかった様々な「優しいところ」を発見できたようです。

施設の「優しいところ」というと、高齢者の方や障害のある方に向けたもの、というイメージが子どもたちにはあったようですが、誰にとっても使いやすかったり役に立ったりするものがたくさんあることにも気付けたようです。

（雄島小学校）の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

３年生は、「パラスポーツ」「車いすバスケットボール」について学習しました。障がいがあっても、工夫すればみんなでスポーツを楽しむことができることを知りました。

４年生は、総合的な学習を中心に「だれでも　だれとでも」をテーマに「パラスポーツ」「視覚障がい者の話」「盲導犬」について学習しました。障害のある方の話を聞いたり、体験活動をしたりすることで、障害について知り、自分たちにできることについて考えました。

令和５年度の取組み（３・４年）

＜車いすバスケットボール体験＞

講師の先生に来ていただき、車いすバスケットボールを体験しました。車いすを動かしながらパスをしたり、座ったままシュートをしたりなど、普段とは違い思うようになかなか動かせないことに児童は戸惑いながらも楽しんでいました。

＜パラスポーツ体験（ボッチャ）＞

講師の先生に来ていただきボッチャを体験しました。分かりやすく簡単なルールのため、どの児童も楽しく体験していました。

障がいある人でも、ルールや道具を工夫することで、楽しんでスポーツをすることができることを知りました。

＜源さんのお話＞

源さんの講演では、視覚障がいや盲導犬についてお話をしていただきました。児童はたくさん質問をし、源さんは丁寧に答えてくださりました。児童は、源さんや視覚障がい、盲導犬への理解を深めていました。お話を聞いたことで、視覚障がい者への印象が変わった児童や、自分にできることを真剣に考える児童がたくさんいました。

加戸小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

４年生は総合的な学習の時間に、「やさしさみつけ隊」「やさしさつたえ隊」をテーマに、福祉についての学習に取り組みました。身体障がい者の方のお話を聞いたり、車いす体験や点字、アイマスク体験をしたり、視覚障がい者の方のお話を聞いたりすることを通して、福祉について知ったり、自分たちがどのように関わっていくことができるのかを探ったりしました。

令和５年度の取組み

<u>バリアフリー教室</u>

中部運輸局バリアフリー推進課のご協力のもと、バリアフリー教室を実施しました。身体障がい者の方のお話では、普段の生活の中で困ることや、車いすの使い方について教えていただきました。車いす体験では、小さな段差や曲がり角でも、車いすを操作することがとても難しいことを学びました。その後のバスの乗降体験では、車いすのままバスに乗る体験をしました。周囲の人の手助けをすることの大切さなどを学びました。視覚障がい者の体験では、身のまわりにある点字が使われたものに触れたり、アイマスク体験を通して介助の仕方や声掛けの仕方を教わって体験したりしました。

<u>源さんの講演会</u>

源さんの講演会では、盲導犬の役わりや源さんの生活の様子について学習しました。盲導犬の役割や源さんの生活の中で役に立っていること、生活の中で困ることや盲導犬を連れているからこその苦労などをお聞きしました。また、視覚障がい者の方が、普段、どういう工夫をして生活しているかについても学習しました。視覚障がいのある人でも楽しめるルービックキューブ等、障がいをもつ人に向けた工夫のある品物をいくつか紹介していただき、興味津々で話を聞くことができました。

三国西小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

「障がいについて理解を深め、思いやりの心を育む」ことを目標に、①アイマスク体験、②点字体験、③障がい者スポーツ出前講座の受講を行いました。

また、その他にも、盲導犬、手話、車いすに関する動画を視聴し、障がいやそのための手立てについての理解を深める学習を行いました。これらの活動や学習を通して理解が深まるだけでなく、思いやりの心を育む良い機会となりました。

令和５年度の取組み

アイマスク体験

まず、目が不自由な人の役をする友だちを安全に誘導するためのお互いの立ち位置や声かけ等をしっかり押さえました。次に、実際に廊下や階段を歩いたり、図書室で本を開いたり、手を洗ったり、名前を書いたりしました。目が見えないことの怖さや不自由さを実感すると共に、サポート役のありがたさや必要性を感じていました。

点字体験

三国点訳グループの方に講師として来ていただき、点字の仕組みや点字の打ち方を教わりました。体験では、まず点筆と点字器を使って点字を打ちました。紙が破けないように力加減が難しく、また時間がかかることが分かりました。次にパソコンやタイプライターでも点字を打ちました。児童はその便利さに驚いていました。

障がい者スポーツ出前講座

しあわせ福井スポーツ協会のご協力を得て、フライングディスクとボッチャを体験しました。目が不自由な方のために音で方向を知らせたり、車いすの方のためにリングの高さを低くしたりすることで誰でもフライングディスクが楽しめることを学びました。ボッチャも、障がいの有無、年齢、性別をこえて、楽しめるスポーツであることを感じながら、活動することができました。

三国中学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

三国中学校では、今年度地域とのつながりを大切にして活動してきました！
様々な活動を通して、自分たちが住む町でどんな活動がされているのか、自分たちに何ができるのかについて関心を高めながら活動しました。

令和５年度の取組み

★職業講演会（１年）
介護士等８つの職種の方々に講演をしていただきました。講演の中には障がい者体験をさせていただいたり、仕事の内容や、周囲の人がどのような手助けができるのかを教えていただきました。

★職場体験（２年）
保育園や高齢者施設等の職場体験を行いました。普段経験できない貴重な体験をすることができました。事後活動では、レポートを作成し、働く上で必要なことを考えました。

★探究学習（３年）
子育て支援に何ができるかを考え、母親が必要な施設のアンケートを行いました。その結果から、子育てへの負担を軽減するアイデアを坂井市職員や地域の方々に提案しました。

★エコキャップアート（ＪＲＣ委員会）
エコキャップ回収活動で集めたキャップを使用し、三国花火をテーマにエコキャップアートの作成をし、三国駅に展示しました。３月には三国祭をテーマに作成し、福井駅に展示する予定です。

★募金活動（赤い羽根共同募金、能登半島地震）
生徒会とＪＲＣ委員会で募金活動を行いました。全校に呼びかけをし、たくさんの募金が集まりました。

平章小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

「だれもがしあわせに」「思いやりの心」

パラスポーツ（ボッチャ）体験、インスタントシニア体験など、体験を通して学んだことを実践する場として、「地域の高齢者との交流会」を開くことを目ざして、学習を進めました。交流会を開くという目的があることで、体験活動が受け身ではなく、どう生かしていくとよいかを考える場になりました。実際に高齢者と共に楽しい時間を過ごすことで、テーマである「思いやりの心」が育ったようです。

令和５年度の取組み

★障がい者スポーツ出前授業（ボッチャ体験、座学「パラスポーツについて」）

「ふだんの　くらしを　しあわせに」という福祉の考え方を学びました。だれもが楽しめるパラスポーツについて、画像を見ながら知ることができました。

しあわせ福井スポーツ協会の方の指導のもと、実際にボッチャの体験をしました。地域の高齢者の方々と共に楽しみたいという意欲付けになりました。

★インスタントシニア体験、アイマスク体験

高齢者の疑似体験をすることで、階段の上り下りや手洗いなど、日常生活上の困難さを知ったり、付きそう側の大変さや気をつけることにも気付くことができました。

その後、体験したことから、高齢者がどんなことに困っているのか、自分たちはどう接するとよいのかなどを話し合い、交流会の進め方に役立てようとしていました。

★手話体験講座

聴覚障害者協会の方から、聞こえないとはどういうことか、実際の生活の中での困難さや工夫などを学びました。講師の方の「思いやりの心が一番大事です。」という言葉が、心に残りました。

★地域の高齢者との交流会

グループに分かれ、交流会の進め方や、ボッチャのルール、話しかけ方など、今までの学習を生かし計画を立てました。また、「サプライズで音楽のプレゼントをしよう。」「かわいい名札を作ろう。」といったアイデアも出されました。

校区の老人会の方々をお招きして、交流会を開きました。輪になって自己紹介をし打ち解けた後は、いっしょにボッチャをしたり、リコーダー演奏をきいていただいたり、楽しい時間を過ごすことができました。初めは緊張気味の子どもたちも、活動の中で自分から積極的に話しかけ、終わる頃にはすっかり仲良くなったようです。うまくできたという達成感を味わうことができました。

長畝小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

「やさしさいっぱいのまちに」をテーマに、総合的な学習の時間で福祉について学び、様々な福祉体験を行いました。困っている人の立場を理解し、自分にできることは何か考え、手助けしていこうという思いやりの心を育てることができました。

令和５年度の取組み

車いす・シニア体験

車いす体験では、車いすに乗ったり介助したりする活動を行い、車いすを利用する人の気持ちを実感することができました。また、相手が安心できるように声をかけたり、ゆっくり操作したりすることが大切だと気付くことができました。

シニア体験では、インスタントシニアの装具を身に付け、歩いたり文字を読んだりして、高齢者の思いに気付くことができました。

アイマスク・点訳体験

アイマスク体験では、アイマスクをつけて校舎内を歩き、目が不自由な人にどのようなサポートをするとよいのか考えることができました。

点訳体験では、点字の読み方を学び、名刺作りやクイズに挑戦しました。点字を打つことができたことを喜び、点字を覚えて、目の不自由な人とやりとりができるようにしたいという気持ちをもつことができました。

視覚障がいの方のお話

盲導犬と一緒に生活している視覚障がいの方に、日常生活につい聞きました。盲導犬に助けられている話や、聞こえてくる音、感触など感覚を働かせている話などを聞きました。また、日頃使っている便利な道具も見せてもらいました。大変な思いをしながらも、前向きに楽しく暮らしている姿に、児童は驚いていました。

手話体験

耳の不自由な方の生活について話を聞き、聞こえないことの大変さを知ることができました。また、手話体験をし、挨拶や自分の名前などを教わりました。児童同士で手話のやりとりができたことを喜び、もっと手話を覚えて、耳の不自由な方とコミュニケーションがとれるようになりたいという思いをもつことができました。

高椋小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

昨年度に引き続き、今年度も、本校の教育方針である「本物に触れる体験」を通した学びを大切にしながら学習を進めていきました。

児童は、様々な体験を通し、体の不自由な方について理解を深め、相手の立場になって介助したり声かけしたりすることの大切さに気づくことができました。障がいについて具体的に学び、自分の事として考えるよい機会となりました。また、学んだことをこれからの生活に生かそうとする態度が見られました。

令和５年度の取組み

１学期には、福祉について知る活動に取り組みました。福祉を「ふだんの くらしの しあわせ」と捉え、だれもが幸せに暮らす社会を目指すものだと定義づけました。そして、日常生活に困難を抱えやすい存在として視覚障がい者、聴覚障がい者、肢体不自由者、高齢者、妊婦、外国人の例を挙げ、それぞれの抱える生活上の困難について調べました。調べた後には、タブレットを活用し、一番伝えたいことについて発表しました。

２学期には、インスタントシニア体験、アイマスク体験、視覚障がい者・盲導犬についての講話、車いす体験、手話講座、認知症サポーター養成講座の６つの活動をしました。それぞれの活動後は、学び、考えたことから一番伝えたいことをタブレットを使ってまとめました。

〈インスタントシニア体験〉（９月１９日）

社会福祉協議会の方に来ていただき、インスタントシニア体験をしました。高齢者の疑似体験をするための道具を身につけ、サポートする人と一緒に廊下を歩いたり、階段の上り下りをしたりしました。さらに、文字を書く、本を読む、落ちている紙を拾うなど日常生活のことを体験し、不自由さを実感しました。振り返りでは、高齢者との関わり方やサポートの仕方について、「ゆっくりと大きな声で声掛けをしたい」「肩を支えてゆっくり歩くとよい」など、高齢者の立場を考えて関わることの大切さに気づいていました。

〈アイマスク体験〉（９月２１日）

視覚障がいについて学習を深めるために、まず、二人一組でアイマスク体験をしました。教室では、字を書く、いすに座る、ランドセルを取りに行く、帰りの準備をするなど、教室

の中で毎日していることに取り組んでみました。廊下や階段では、壁を触りながら歩いたり、手すりを使って階段の上り下りをしたりしました。振り返りでは、目の見えない怖さを実感し、介助者の声掛けの重要性に気づいていました。

〈視覚障がい者・盲導犬についての講話〉（１０月４日）

盲導犬と一緒に暮らす視覚障がい者の方とサポートボランティアさんに来ていただき、盲導犬や視覚障がい者の生活の話を聞きました。また、便利なグッズが開発されていることを教えていただき、社会の福祉の取り組みを知るとともに、関心をもつ機会になりました。振り返りでは、盲導犬の仕事ぶりや、障がいを抱えながらも前向きに努力する生き方に心を打たれる様子がうかがえました。

〈車いす体験〉（１０月１２日）

初めに、社会福祉協議会の方から車いすの使い方や介助の仕方について説明を聞きました。その後、ペアになって段差やスロープの上り下り、ボール拾い、手洗いなどを体験しました。体験を通して介助する側と車いすに乗る側の双方の気持ちを理解できた様子でした。振り返りでは、普段何気なく歩いている道や行動も、車いす利用者にとっては簡単なものではないことに気づき、「困っている車いすの人を見つけたら自分から助けたい」という声が上がりました。

〈手話講座〉（１１月２０日）

福井県聴覚障がい者協会から３名来ていただき、話を聞きました。聴覚障がいの種類や日常生活の送り方、便利な生活用具などを教えていただきました。児童たちは、障がいを抱えながらも健常者と同じように幸せに暮らしていることに驚き、障がいへの印象が変化したようでした。その後、実際に手話を体験し「手話をもっと覚えたい」「手話が分からないときは筆談で助けたい」という前向きな声が上がりました。

〈認知症サポーター養成講座〉（１１月２８日）

あわさか認知症キャラバンメイト連絡会から３名来ていただき、認知症とは何なのか、認知症の人との関わりで大切なことについて話を聞きました。その後、具体的な対応の仕方についてロールプレイング形式で確認したところ、予想以上に実践することの難しさを感じた様子でした。振り返りでは、相手を思い「おどろかせない」「急がせない」「心を傷つけない」ように関わることの大切さに気づいていました。

鳴鹿小学校の福祉活動を紹介します！

【活動アピールポイント】

「障がいのある人とともに」のテーマのもと４年生が総合的な学習の時間を中心に取り組みました。導入として障がい者スポーツを体験しました。その後「障がいとは」「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」などについて調べ、学校内のバリアフリーやユニバーサルデザインにもたくさん気づくことができました。また校舎内でアイマスク体験をして、その後、各自がテーマを決めて調べ学習をしました。児童は自分たちにできることを考え、思いやりをもって接する大切さを学びました。

令和５年度の取組み

障がい者スポーツ出前講座

◎福祉教育の導入として、しあわせ福井スポーツ協会主管による講師の方々をお迎えして、「ボッチャ」と「車いすバスケットボール」を体験しました。「ボッチャ」では、初めて触れるボールでしたが、ルールが工夫されていることを楽しんで投げていました。「車いすバスケットボール」では、車いすの操作に苦戦し、友達とぶつかり合いながらゴールを目指していました。子どもたちは、障がい者スポーツを通して、障がいのある人と触れあい、相互理解を促進することができました。

アイマスク体験

◎校舎内を２人１組で歩きました。一人がアイマスクをつけ、もう一人が安全に歩けるよう声かけをしながら誘導しました。「怖い」「動きづらい」等、視覚障がい者の方の大変さを実感し、これからは自分にできることがあれば助けたり手伝ったりしたいという思いを育てることができました。